

震災津波伝承施設検討委員会での検討状況

(第3回 高田松原津波復興祈念公園 有識者委員会 資料)

平成28年9月29日

1. 震災津波伝承施設検討委員会の概要

○ 所掌事項

- (1) 岩手県陸前高田市高田松原地区における高田松原津波復興祈念公園に整備する震災津波伝承施設(仮称)の検討に関すること
- (2) その他、震災津波伝承施設(仮称)に関して必要な事項

○ 委員名簿

区分	氏名	所属・役職等
委員長	南 正昭	岩手大学地域防災研究センター長、工学部教授
副委員長	柴山 明寛	東北大学災害科学国際研究所准教授
委員	小笠原 裕	株式会社岩手日報社常勤監査役
委員	山口 壽道	公益財団法人山の暮らし再生機構理事長 (元公益社団法人中越防災安全推進機構事務局長)
委員	熊谷 順子	株式会社復建技術コンサルタント事業企画本部 理事(元国土交通省東北地方整備局企画部防災課長)
委員	赤沼 英男	岩手県立博物館首席専門学芸員

○ 事務局

岩手県復興局
岩手県県土整備部
国土交通省東北地方整備局
陸前高田市

■ 震災津波伝承施設(仮称)の計画位置



「高田松原津波復興祈念公園基本計画」
(平成27年8月、復興庁・岩手県・陸前高田市)の
P21をもとに作成

2. 検討経緯

有識者委員会【県】

平成27年8月5日開催

第1回有識者委員会

○検討方針(案)について

平成28年3月29日開催

第2回有識者委員会

○検討体制、スケジュール等について
○各委員会等検討状況について
○国営追悼・祈念施設(仮称)の
基本設計(案)について

平成28年9月29日開催

第3回有識者委員会

○各委員会等検討結果について
○基本設計(案)について

震災伝承施設検討委員会【県】

平成27年9月4日開催

第1回委員会

○本委員会における検討事項と検討スケジュールについて
○震災津波伝承施設における展示の基本的な考え方について
役割や機能/目指す姿など

平成27年12月15日開催

第2回委員会

○県内各市町村の伝承施設等との機能分担・連携について
○展示展開の方向性について

平成28年2月22日開催

第3回委員会

○展示等基本計画(案)について

平成28年8月22日開催

第1回委員会

○平成28年度における委員会の運営について
○基本設計における検討事項について

調査実施【県】

平成27年10月19～21日実施

県内伝承施設等調査

○沿岸12市町村ヒアリング調査

平成27年11月19～20日実施

先進事例調査

○中越メモリアル回廊視察調査

3. 平成28年度第1回震災津波伝承施設検討委員会における主なご意見

日時:平成28年8月22日(月)13:00~15:00

会場:岩手県水産会館5階大会議室

出席者:南正昭委員長、柴山明寛副委員長、小笠原裕委員、
山口壽道委員、熊谷順子委員、赤沼英男委員



<伝承施設展示等基本計画について>

- ・ゾーン3「教訓を学ぶ」の展示項目「被害の検証と対策の提示」は、ゾーン4「復興を共に進める」にも関わることに留意が必要。
- ・東日本大震災においては、先人が残した石碑などを防災に活かせなかった反省がある。300年後の人が振り返ることができるよう、町の変化そのものを残していく、残せるものを立体的に、三次元的に、広がりを持って残しておくことが大事。

<震災遺構について>

- ・盛土した後では震災前の地盤の高さがわからない。津波高と同時に震災時の地盤高を示さないと津波高の印象が薄れる。
- ・津波の高さや恐ろしさを実感できるような展示が必要。中でも多くの人びとが訪れる機会が多いタピック45の見せ方が重要。
- ・タピック45の中に入れないなら、展示で再現する必要がある。
- ・各々の遺構が津波に対してどういう意味を持っているのかを客観的に紹介していけば、全国あるいは国際的につながる情報発信になるのではないか。

<公園における追悼・鎮魂の方法について>

- ・亡くなった方々の名前の残し方(石碑等)など、鎮魂の場所として生かす方法の検討が必要。

<展示内容について>

- ・3.11以前の津波災害の歴史も重要。ゾーン1「導入展示」でも、過去の津波災害も乗り越え立ち上がってきたことを伝えるべき。
- ・古文書や錦絵、津波記念碑といった文化財の情報も取り入れつつ、自然科学のデータを融合させて紹介するのがよい。
- ・現展示構成リストに挙がっている項目を全部表現するのは難しい。次の展示更新についても今年度検討しておくことが必要。
- ・既にある証言記録を使用する際には権利処理に留意が必要。

3. 平成28年度第1回震災津波伝承施設検討委員会における主なご意見

- ・運営する人たちの意見を反映させて設計を行うべき。
- ・事実をきちんと把握して、事実に基づいた展示をすべき。
- ・全国あるいは全世界の人が利用するので、他地域や他の国々での災害との比較も入れていくことが必要。
- ・国際的視野に立って、海外からの支援はもうちょっと大きく取り上げてもいい。
- ・修学旅行での来館者数の増加のため、学校現場での防災教育、減災教育の位置づけにも目を向けたほうがいい。
- ・マイナス面だけではなく、みんなが協力して立ち上がってきているというようなプラス面の展示が必要。
- ・まず命を守るための「初期初動(避難する、逃げる)」を強調するのが一番いい。

<市町村・地域住民の関わりについて>

- ・市民や県民との協働は大切。ぜひオープンにしていけたらいい。
- ・沿岸市町村だけでなく、内陸部の自治体職員や、自衛隊や消防等への意見聴取も重要。

<他施設との連携について>

- ・この施設で全てを学び完結するのではなく、他の地域を訪れたり、ワークショップに参加したり、回遊性や体験性を高めるしくみが必要。

<その他>

- ・現在、東日本大震災すべてを扱う施設がない。東日本大震災を全部説明できる施設は国全体としてどこかに必要。
- ・基礎データは県内を中心とするが、ゾーン2「事実を伝える」の展示項目「東日本大震災とは」のようなところでは総論とするのがよい。